

様式（第5関係）

会 議 録

会議の名称	西東京市環境審議会 第2回会議
開催日時	平成14年9月13日（金） 午後7時00分から9時15分まで
場 所	西東京市防災センター6階 講座室2
出席者	（委員）矢内会長、菊地副会長、西川副会長、金井委員、櫻井委員、清水委員、三木委員、網野委員、宇都宮委員、榎本委員、松永委員、和田委員、片山委員、鈴木委員、村松委員、金成委員、柏谷委員、松本委員（欠席：中村委員、佐藤委員） （事務局）大森部長、青柳課長補佐、中村主査、富永主事
議 題	1．前回会議録の確認 2．審議会検討スケジュールについて 3．環境の課題・重点項目と将来像について 4．その他
会議資料	別添 資料1 第2回審議会検討事項 資料2 審議会検討スケジュールについて 資料3 審議会委員からの検討シート 資料4 西東京市における環境の課題 資料5 参考資料（小平市環境基本計画概要版）
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
矢内委員（会長）	それでは、2回目の環境審議会を始めます。
矢内委員	1．前回議事録の確認 （確認事項については略）
青柳（環境保全課課長補佐）	名簿について、前回から動きがありましたので報告いたします。まず、副会長は、西川さんと菊地さんの2人をお願いすることになりました。あとは事務局からお願いします。
柏谷委員	多摩環境事務所の柏谷さんが、異動に伴い柿沼さんに代わって委員となりました。
矢内委員	よろしくおねがいします。
青柳	では、審議に入ります。資料の説明を事務局のほうからお願いします。 資料の確認です。資料1は本日の検討事項を示したものです。資料2はスケジュール。資料3については、委員の皆様から提出された検討シートをまとめたものです。 資料4は職員PTからの資料をもとに、環境の状況についてまとめたものです。正誤表にもありますが、P15の環境アセスメントの状況とP40

	<p>の水道使用量について修正があります。</p>
矢内委員	<p>資料の抜け落ちはありませんか。なければ次の議題にいきましょう。</p> <p>2. 審議会検討スケジュールについて</p>
矢内委員	<p>資料1を見てください。まず、各審議会のテーマ・日時と、来年度実施する「市民の意見を聞く会」についてのご承認をいただきたいと思います。資料2では、答申素案骨子の位置づけとして、答申素案骨子をもとに市民の意見を聞く会で市民の意見を聞いていくものとなっています。その日程については、資料2の2ページにあります。参考につけている全体スケジュールの兼ね合いもみながらみてください。このなかで、次回、次々回の内容については、副会長さんと相談してテーマ設定を行いました。次回はフリーディスカッションをおこない、アクションとしてはどういうことをやっていくべきなのかということを検討します。次々回11月8日は、将来像を詰めていきます。ここでは、アンケート結果を踏まえながらやっていきたいと思います。その次には来年の1月と間があきますが、まとめるのに時間が必要かということによってこのようになっていきます。ここで答申素案骨子の作業案をまとめたいと思っています。最後に2月7日には市民の意見を聞く会について検討することとなっています。異存がなければ、このような枠組みでやっていきたいと思います。</p>
村松委員	<p>アンケートの占める位置づけが気になります。前回の議論では補足的に使うというものだったのではないのでしょうか。しかし、これをみると重要になってくるように思えます。アンケートをどのように活用すると考えているのかを知りたいのですが。</p>
矢内委員	<p>事務局ではどう考えていますか。</p>
青柳	<p>審議会での検討の参考として、また計画のバックデータとして活用したいと思っています。</p>
松永委員	<p>市民アンケートが、うちの妻宛に来ました。内容を見せてもらいましたが、意識調査としての内容であったので、審議会としては補足的位置付けにするという、スタンスを明らかにしておけばよいのではないのでしょうか。</p>
櫻井委員	<p>前回に見せてもらったが、そんなに難しいアンケートではなく、意識調査なので、私たちが審議をしていく中では妨げにはならないのではないかと思います。これは審議会での検討と言うよりも施策の展開において使うのではないかと私は考えています。</p>
村松委員	<p>意識調査的な内容であり、このアンケートによってあたらしいアイデアがでるとは思えません。</p>
矢内委員	<p>施策を展開するにあたって市民の意向がどうであるかということを知るため、という位置づけで考えればよいのではないのでしょうか。特に問題なければ全体のスケジュールについてはこういったスケジュールで進めていくということによるのでしょうか。また15年度については参考であるが、全体のスケジュールが示されています。</p>

金井委員	スケジュールに関連して、最終的にできるものは何でしょうか。期間として無理のように思えます。
矢内委員	副会長さんと事前の検討をする中で、ある程度雛形のようなものは頭に置いてあります。それは、資料1の裏のキーワードで示されるような枠組みがあって、できあがっていくものであると考えています。 ただ、それを固まった形で出してしまうと、自由な議論の妨げになるのではと考え、今回は、キーワードを示すにとどめました。次回は、今回みなさんからの意見をまとめることで、それが今までの他市町村であるような従来型の枠組みに入るかどうかを考えていきます。
金井委員	基本計画をつくるときに、他の市町村と大体同じものができるのではないかと考えています。そうであれば、例えば西東京市では多摩市の枠組みを下敷きに検討していきます、と明言して、「聞く会」を研究会のようにその中をどのようにするか、というように意見を聞くようにしてはどうでしょうか。順番の話として、審議会で作ってから市民の意見を聞くというやり方とは逆に、市民の意見をきいてから作るというやり方もあるのではないのでしょうか。
矢内委員	それは戦略としてのやりかたですね。ただ、素案骨子を作り、聞く会にだして、いろいろたたかれる。それが、結果的に計画に反映されるという考えで進めています。
金井委員	ただ、市民からするとできたものが「なんだ、他の市町村と同じものではないか。そんなものに2年間もかけたのか」ということにならないでしょうか。
矢内委員	それはみなさんの力量にかかっていると思います。
村松委員	この計画での、西東京市独自のオリジナリティを見いだすことが大切だと思います。
鈴木委員	下敷きになるのは、どの市でも同じものなのではないでしょうか。その中で重点的、早期に、西東京市ですべき、またはできることを計画の中で提案していくことが大切です。 数は少なくてもいいので、10～30年でできることを考え、西東京市では、ここは絶対やるのだということを明確に示していかないと、一緒のものができてしまうのではないのでしょうか。
矢内委員	すでに内容についての議論になっていますので、これは後に議論するという事で預かります。
清水委員	15年度までのスケジュールができました。そのなかで、来年の10月までにISO14001を取得するという事になっています。そのISOと、この環境基本計画、どう関連させていくのでしょうか。それとも、それぞれ独立してやるのでしょうか。
矢内委員	事務局から説明をお願いします。
青柳	時期はご指摘の通りです。ISOは環境基本計画の中での、役所の果たすべ

	<p>き役割の一つであり、環境基本計画に包含されるような ISO14001 となるようにしていきます。</p> <p>対象は、市のすべての主体ではなく、事務所としての市行政となります。</p>
清水委員	<p>そのあとに、市民、事業者はどう呼びかけていくのですか。</p>
矢内委員	<p>事業者として、率先して取得、その後事業者に対して取得を支援するということもあり得るでしょう。</p>
櫻井委員	<p>市は様々なことをすでにやっています。環境基本計画はそれを止めるようなものではなく、計画策定以降なおやるべきことということをご提案するものではないでしょうか。なのでここでは問題ないのではないかと思います。</p>
清水委員	<p>単に紙の使用量を減らしたりというのでは、ISO のねらい所が少し違うのではないかと。ISO を生かすような形でいずれは取り組んでほしいです。</p>
矢内委員	<p>とりあえずは取得して、それを他の事業所にひろげていくなどが考えられますが、それはこの会での提言をどう作るかに掛かってきます。つまり、ISO を全体にどう位置づけるかということを示せばよいのではないのでしょうか。</p>
清水委員	<p>ただ、西東京市独自の活動を行うための環境基本計画があって、それを進める手段としての ISO という位置づけでないと、ISO の意味がないのではないのでしょうか。</p>
矢内委員	<p>ISO の他にもグリーン購入など、率先的な取り組みを進める様々な手段があります。それらも盛り込んでいかないといけないと思います。</p>
櫻井委員	<p>この審議会で行うのは平成 16 年度以降の施策についての計画での答申です。今やっていることを今どうこうするというのではなく、それを 16 年度以降にどうしていくかということではないのでしょうか。</p>
三木委員	<p>資料 4 の 4 ページに他の計画が載っていますが、この環境基本計画と他の計画との関連をどうするのかも必要です。</p> <p>ISO は事業所でマネジメントをどうするのかということなので、環境基本計画との関連はあまりないと考えてかまわないと思います。</p> <p>ただ、他の計画との関連を含めて計画の位置づけをはっきりさせた方がいいのではないかと考えています。</p>
矢内委員	<p>すでに後の議論に入っているので、後に検討していきたいと思います。</p> <p>市民の意見を聞く会については、これでいいでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>どれくらいの市民が集まるかを考えておく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>集まった市民はいろんな言いたいことを言うと思います。しかし、こうしたテーマ設定でどれだけ集まるかというのが疑問です。集め方はどうするのでしょうか。例えば、団体の中にこちらから入っていくというやり方もあると思います。そのほかには、団体に呼びかけるとか。そうした手法については考える必要があるのではないのでしょうか。</p>
矢内委員	<p>事務局はどうですか。</p>

青柳	総合計画のワークショップについては、委員の中で参加された方もいらっしゃると思いますが、全体で32人ということでした。
鈴木委員	人数の問題もあるので、関心のある団体に呼びかけてはどうでしょうか。
金成委員	市民の意見を聞く会というのは、まず、市民に広く呼びかけることが必要です。それから、団体にも呼びかけるというのはどうでしょうか。
櫻井委員	32人しか集まらなかったそうですが、日時設定が適切であるかの検討が必要です。また、周知方法は市報が中心とのことですが、私も市報だけでなくもっと別の方法を考えることが必要であると思っています。また、こうした環境基本計画づくりに向けた議論を審議会で行っているんだということを知ってもらいたいと思います。 また、回数についても1回でいいのか、と思います。審議会の活動や西東京市の取り組みなどを知ってもらうために、企業と同じように情報宣伝活動を大々的にやる必要があるのではないのでしょうか。
西川委員	不特定多数の人に呼びかけても来てもらえる人は少ないと思います。また、少なければ開く意味があるかどうか疑問もあります。だから、団体にも呼びかけることが必要だと考えます。何のために開くのか、開く意味を考えることが大事です。
矢内委員	今の状態で統一的な見解が出るとは思えないので、今後継続的に検討をしていくことにします。周知の方法は考えていくということで、ここではワークショップ形式という手法については、認めていただけないのでしょうか。
金成委員	答申の内容にもよると思います。緑を守りましょう、増やしましょうということであれば、当然であるということになって意見も出ないと思います。
矢内委員	検討内容は多岐にわたるので建設的な意見が出るのではないのでしょうか。
片山委員	専門的に目標を定めていくというのも大事ですが、広く意識を高めることも大切です。そのためには、こうして審議会で行っているよということが一般の人たちにわかって、その上で意識の高い人の意見を取り入れていく、というプロセスが大事ではないのでしょうか。
三木委員	今検討している内容は第6回目で検討することではないのでしょうか。今やっている議論は、そこでやればいいのかと思います。今日の議題に戻しましょう。
櫻井委員	ただ、ワークショップの回数は1回でいいのか気がなります。
矢内委員	その余地は、事務局ではどう考えていますか。
青柳	回数については、1回に限定している訳ではなく余地はあります。
矢内委員	では、回数については余地があるということで、ワークショップについてはこの時期に行い、呼びかけの方法については考えていくことにしましょう。また、シンポジウムについては、今後、検討を行います。これらについては、会場の手配の関係から出ている話題なので、その期限をに

	<p>らみながら検討します。</p> <p>3. 環境の課題・重点項目と将来像について</p>
矢内委員	<p>では、資料3と資料1の裏を見てください。キーワードをまとめたものが資料1のまんなかにあります。また、資料3は委員のみなさんが提案された取り組みをまとめたものです。確認いただいて、西東京市で特徴となるものを取りあげていきたいと思います。</p> <p>資料4は、現状と課題です。後の部分にみなさんの必要とするデータとの対応が示されています。</p> <p>今日のところは、これをもとに活発な意見をいただきたいと思います。議論の進め方として、キーワードの中で重点的なものになるというもの、西東京市で独自のものとなるようなものを出してください。</p>
青柳	<p>追加として、検討シートが村松委員から本日提出されましたので、それを追加致します。</p>
金井委員	<p>地球温暖化というキーワードが出ているが、これについては西東京市だけが頑張ってもどうしようもない問題であり、広すぎてわからなくなってしまいがちな問題です。</p> <p>ただ、今環境問題は何かといえば多くの方が、地球温暖化をあげるでしょう。ただ、それだと、漠然としています。しかし、それが取りあげられないと計画としてはどうかとは思っています。</p>
三木委員	<p>地球環境問題は、政府でも重要な問題になっています。ただ、政府では項目があがっていますが、何をすべきかが明示されていません。省エネをどれだけやってどれだけ減らしますと言うものはありますが、その進め方については明示されていません。この環境基本計画の中で、市で何ができるかということを示唆していかなければならないと思います。例えば環境家計簿をつけるといったようなことを位置づけていくことが必要です。</p> <p>なので、計画の中では、市が地球温暖化について重視しているよということと、必要なアクションを示していく必要があります。</p>
鈴木委員	<p>温暖化の防止計画をつくるということを書いています。西東京市でやるのが無駄ということではないと思います。市民として何が出来るのかを定めていくことが必要です。京都では温暖化の防止計画を作っています。自治体でできることは限られているが、それが温暖化防止につながるという意識がないと、全体としての温暖化の防止につながっていかないと思います。一人一人の認識が大切です。</p>
櫻井委員	<p>地球環境問題を検討課題として出したが、地球規模で考え地域から行動する、その行動を示すと言うことで、地球環境問題を取りあげています。</p> <p>今、温室効果ガスについては、産業部門よりも民生部門が問題となっています。民生部門というのは、大変取り組みにくいところです。この部門は国としてやらなきゃいけないし、市民としてもやらなければならないと思います。市民も、省エネルギーのためにコンセントを抜くといったような、意識付けをしていくことが必要なのではないかと思っています。そういったものの積み重ねが必要であり、この問題は避けて通れない問題だと思っています。</p>
西川委員	<p>この問題は、取りあげざるを得ないと思います。電気の使用など、生活産業活動のすべての側面が温室効果ガスの排出と関わっています。定量的に</p>

	<p>どのように削減できうるかは難しいところですが、大きな事業者には削減計画を出させるようにしていますし、新しい法律では地方公共団体に防止計画の策定が義務づけられます。</p> <p>また、ヒートアイランドによってエアコンによる温排熱や、対策の方では屋上緑化が進むなど、目に見える形でも、CO₂に関わっていると言うものが出てきています。定量化は難しいですが、温暖化とヒートアイランドは避けて通れない課題です。</p>
清水委員	<p>いま出されているキーワードだと、細かさのレベル、原因と結果、手段とがミックスされているので、整理が必要だと思います。</p>
菊地委員	<p>このペースで検討をしていると大変な時間がかかると思います。</p> <p>キーワードが出ていますがこれで網羅されているかどうか、抜けているものはないかを考える必要があるでしょう。そのなかで、三木委員の提案にありましたが、重要な項目、優先になすべきことを考えることが大切です。キーワードはたたき台であり、その中から、西東京市独自のものはなにかということを探していくことが必要であると思います。</p>
矢内委員	<p>具体的なデータ、手段を盛り込む中で、キーワードを絞っていきます。そのなかで、強調しておきたいという問題を取りあげていくことが大切です。今のキーワードは未整理ですが、その中で、力点をここに置きたいというものをあげていただければと思います。</p>
櫻井委員	<p>計画づくりについて西東京市の位置する場所を考えると、近隣市区町村でやっていることはやる必要があり、やらないと言うのではダメであると思います。例えば、ヒートアイランドについては、西東京市の状況は23区とほぼ同様であり、23区と同じような取り組みが必要となります。独自にやるべきものも大切だが、それを考えると、やる必要があるものの漏れ落ちが心配です。</p>
矢内委員	<p>必要なことは網羅しますが、そのなかで力点を置きたい部分を出していきたいと思います。</p>
三木委員	<p>こういう委員会で事務局が聞きたいことは、委員の思い入れではないでしょうか。西東京市民のキーワードについての思い入れを言えばいいと思います。例えば、ヒートアイランドは大切なんだという感じで意見を言えばよいのではないかと。それがこの会の意見となり、それを市民に問うというストーリーが出来ると思います。</p>
金成委員	<p>では私から思い入れを出していきたいと思います。重要なのは、ごみ問題、それと環境学習だと思います。西東京市では環境学習が体系的に整備されていないと思います。</p> <p>計画の内容を伝えていくためには、学習のプラン、生活に密着した環境学習が必要です。ごみを考えた資源循環を、どのように作り出していくかをこの審議会で位置づけていきたいと考えます。</p>
清水委員	<p>私は環境ラベルや環境認証をアピールしたいです。東京都のエコアップ宣言などにもあるように、自分たちがやっている環境への取り組みを世の中にPRすることが大切だと思います。ISOに金を掛けるのではなく、身近なところでのイメージアップの活動をやっていくことを進めていくことが必要ではないでしょうか。</p>

矢内委員	それは戦略として取りあげることですね。
鈴木委員	「廃棄物、リサイクル、リユースについて、市民、事業者としてやるべきこと」、「地球温暖化対策について自治体でつくっていくこと」、「環境教育・環境学習をすすめること」、この3点を強調したいです。
櫻井委員	いま出されているキーワードの中で、「良好な生活環境」というのは漠然としているが、汚い空気もまずい水も良好な生活環境でくられることだと思います。このキーワードの読み方がわかりません。キーワードの大きさについて考える必要があります。
西川委員	「交通（安全）」というキーワードがあるが、「安全」だけでなく、交通渋滞の解消、また駅前交通対策という観点からも必要です、今ではバスが窮屈な道を排気ガスをまき散らしながら進んでいっているような状況もあります。なので、安全というよりもむしろ、「交通環境の整備」としたほうがよいのではないのでしょうか。それは、環境問題とは違うといわれるかもしれませんが、アメニティという観点からは重要な要素であると思います。
矢内委員	ヨーロッパでは、「環境に配慮した交通体系」ということで、交通を取りあげる例も見られます。
櫻井委員	キーワードの理解のやり方がわかりません。このキーワードを独立したものと捉えるのか、それとも委員の意見とみるものなのか、どちらなのでしょう。
矢内委員	キーワードには、こだわらずに議論をいただきたい。ここに押し込もうということではありません。
網野委員	事業者として出ていますが、個人的に感じたことを言わせていただきます。環境を考える上では、「身近な生活環境」と、「地球環境」が柱として重要になります。それをどのように進めていくかということが、環境教育、学習に収斂していきます。そこで、市のレベルでは環境教育、環境学習をすすめることが非常に大事です。 また、今のキーワードに加えて欲しいことは、美しいまちをつくるための景観の保全です。地域の持つ独自の風土、伝統的な街並みをどう受け継いでいくかということも入れておいて欲しいです。
矢内委員	みなさんの意見をお聞きしていると、環境教育ということが1つの柱になりそうですね。
金井委員	水の問題はあげておいてほしいです。人間は水を飲まない生きてはいけないものです。渇水時の対策をどうするかをあげておくことが必要であると思います。 水と言いましたが、私の意見は水辺より、節水、水循環、保水性など生きるために必要なものとしての水を前面に出したいということです。
金成委員	大気汚染の問題を取り上げるようにと、意見を預かっています。西東京市では幹線道路が多いので、例えば自転車をつかうとか、交通体系など、地域的な面からアプローチできないのでしょうか。

櫻井委員	<p>大気汚染を取りあげると言うことについてですが、西東京市だけで打つ手は何かあるのでしょうか。個人としては、車を使わないということはあると思いますが、使うこともあります。結局は汚染の被害にあわないようにする対策ということになるが、それは大変難しいことであると思います。ただ、できるかどうかは別として重要な課題であると思います。光化学スモッグについては資料でも指摘していますが、光化学スモッグとヒートアイランドは密接な関係があるそうです。大気汚染対策については、総合的な対策が必要です。</p>
金成委員	<p>例えば、市の公用車、はなバスを低公害車にして広めていくこと、また、自動車を何とか減らしていくことそれが必要ではないでしょうか。</p>
清水委員	<p>大気汚染はわかりやすいキーワードではないでしょうか。</p>
矢内委員	<p>資料4の13ページにあります。本市の特徴としては自動車保有台数が少ないことがあげられます。それに対してむしろ通過台数が多いこともあげられます。この生活上の二面性が西東京市の問題であると思います。</p>
松本委員	<p>「環境教育」と言われますが、それをどのようにイメージしているかを知りたいところです。「環境教育」については、資料4の42ページに実績があります。これは私の方から情報提供したのですが、これは大変地味に書いています。もっといろいろと「やっています」と言うことができます。着実に身近なところでやっていることは事実です。環境についての副教材は様々来ています。自分のことかというと、今年まで冷房なしで夏を過ごしてきましたが、今後どうなるのでしょうか。</p>
矢内委員	<p>環境教育については、協力体制をとって進めていくことが必要です。</p>
村松委員	<p>環境教育は重要であるが、最近では「国際」、「情報」というテーマに押され気味です。</p>
松本委員	<p>環境については、社会科や「総合」などの学習の中で取り組んでいます。学校でやっているものは、知識を伝えるものだけではありません。</p>
宇都宮委員	<p>地球温暖化が重要だと思います。これについては市民も非常に興味を持っています。本日もいただいた資料の中にある、小平市の市民アンケートでも関心が高くなっています。そうした関心がエネルギーの削減にもつながっていきます。それをとりあげてほしいと思います。柱としては、水、緑、ごみ、エネルギーなどがあげられると思いますが、エネルギーは目に見えにくいので、関心がいきにくいものです。ぜひそちらにも関心を払って欲しいと思います。</p>
和田委員	<p>自然環境を大事にしてほしいと思います。いま市ではマンションの建設ラッシュで、緑がなくなってきました。西東京市が緑豊かな環境であってほしいと思います。</p>
榎本委員	<p>いま出ているキーワードは圧縮できると思います。自然環境については緑が減っていることが問題であり、市で思い切った方法が必要ではないかと思えます。環境教育は子どもたちという観点で話が進んでいるが、悪くしたのは大人です。ただ、大人への教育がなかなか</p>

	<p>難しいし、市の広報も読まないところがあります。学校は、子どもたちに教えるのに時間的に余裕がないということもあるかと思います。学校を基本としつつ、子どもたちの教育を進めていくことが必要であるが、同時に大人の教育も必要であると思います。</p> <p>そうした大人の環境教育を考えると、フォーラムを1回開催した程度では効かないと思います。明治神宮の森づくりでは2ヶ月に1度フォーラムを開いています。そうした長い目で見て教育をしないといけないのではないのでしょうか。</p> <p>こうした内容をこの回数でまとめていくのは骨の折れる作業であると思いますが、西東京市のなかの身近な環境から始め、世界的な問題に入っていくような工夫が必要だと思います。</p>
松永委員	<p>どれも大事であると思いますが、われわれの意識の中に問題があるということ、意識の中の、環境への負荷の低減の促進、それが具体的に言えば良いと思います。</p> <p>概念的な話になるが、リユースとカリサイクル、環境配慮型のライフスタイルをどのように進めていくか、子どもたちの世代のことまでを考えた環境学習をどのように進めていくかが必要だと思います。</p>
金成委員	<p>「教育」と「学習」の言葉使い分けですが、教育は、やらされるような雰囲気があります。学習の方がなじむのではないのでしょうか。</p>
矢内委員	<p>いずれにしても、環境に配慮したライフスタイルにシフトするために必要です。</p>
片山委員	<p>市民一人ひとりの生活に根ざしたこと、ごみとか、循環型社会のしくみづくりなども必要ですが、景観も含めて身近な環境を住みやすいものにしていくことも必要ではないのでしょうか。西東京市に住んでいていいなと言うようにしたいですね。</p> <p>教育については、子どもに関しては進んでいるが、大人の意識をかえていくことも大切です。</p>
村松委員	<p>ただ、いくら教育してもだめな場合もある。それに対して、罰されるしくみなども戦略としては必要ではないのでしょうか。</p>
宇都宮委員	<p>環境基本計画については、そのあとに実施計画を作っていくことになると思います。実施計画やしぐみについては今後検討する話として、現段階ではビジョンに特化するべきではないかと思います。</p>
矢内委員	<p>時間もだいぶ過ぎているので、今回の議論のポイントをまとめてみます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．環境学習。子どもだけでなく大人も。学校に限らず。 2．資源循環型の地域社会のあり方。 3．大気とか水とか生活環境の重要性。 4．交通体系の扱いをどうするか。 5．環境に配慮したライフスタイルへ移行するためには 6．国、都の動向、取り組みを踏まえた案作り 7．加えて、地球環境問題については、地域のアクションの中で地球環境問題にどのようにアプローチしていくかを考えていく。 <p>ということだと思います。</p> <p>今回、十分に意見を伺えたとはあまり言えませんが、今後はビジョンということで、具体的な姿を考えていくことにしていきたいと思います。</p>

	<p>そこで、次回までに、今回の議事録を見る中で、キーワードを見やすい形で整理しますので、それによって議論を深めていただければと思います。</p>
鈴木委員	<p>入手したい資料があるのですが、京都市で作った温暖化対策の計画と、志木市の自然再生条例が欲しいと思います。また、学校での副読本も見たいと思います。また、社会教育についての実態を知りたいです。</p>
矢内委員	<p>志木市の自然再生条例は、なくなる自然を別に確保するというので、アメリカでのアセスメントの考え方を示しているものですね。</p>
櫻井委員	<p>ただ、志木市の条例は市の事業に限定しています。</p>
三木委員	<p>環境学習について、学校ではちゃんとやっていると思うので、その効果はどうかを見るべきです。よく、「やってない」と言われるのですが、まず何やっているかというのをきちんと知るべきだと思います。</p>
松本委員	<p>もし、機会があれば見てくれればと思います。ただ、効果はあるが、それが持続しないのが課題です。また、資料についてはたくさんあるのですが、多くしすぎても環境への負荷が多くなってしまおうと思うのですが。</p>
金井委員	<p>危惧するのは、学校で環境教育が効果があるのかということです。環境教育をやってもカエルが嫌い、虫が嫌いという子どもではどうしようもないのではないのでしょうか。学校の部分だけを強調すると、大人のお仕着せになるのではないのでしょうか。</p> <p>また、子どもの言うことだけを聞いていると、学校のトイレが汚いからどうにかして欲しい、暑いからクーラーを入れて欲しいと言うことになる。それではよくない。そうしたこともあり、あまり、きれいな言葉で教育をまとめたくないと思います。</p>
櫻井委員	<p>環境教育は小中学校ではやっていますが、高校ではあまりやっていません。それは、試験勉強に必要ないことであるためであり、そうしたものを親や学校がやらせません。危機意識が低いまま大人になってしまっている状況があるのではないのでしょうか。</p>
矢内委員	<p>時間もだいぶ予定を過ぎています。今日はこの辺で閉会とします。次回よろしくお願いいたします。</p>
	以上